

## 労使協調でタクシー事業法成立へ

2011年12月 全自交愛知地連「年末労使懇談会」

全自交愛知地方連合会は、恒例の「年末労使懇談会」を名古屋市内的の名鉄ニューグランドホテルで開催しました。労組側30名事業者側23名の集まりとなり、冒頭主催者を代表して愛知地連犬飼政則執行委員長は、「名古屋交通圏における減休車については事業者の皆様には感謝申し上げます。しかし、タクシー労働者の平均年収は愛知県で300万円を切っている実態については労使で更に魅力ある職場にしていかななくてはならない」と苦言を呈しました。



来賓挨拶として名古屋タクシー協会永山明光専務、名鉄タクシーホールディングス山田健夫社長、つばめ自動車天野清美社長は、それぞれこの労使懇談会の賞賛と終始なごやかな雰囲気で行われました。誼団体で、常日頃各種集会を共催している東海中立労組協議会からは、彌田事務局長が参加され、トヨタの新生スポーツカー86を引き合いに出して変化に対応できる会社経営を求めました。最近の新規加盟を反映して、労使で初参加は13名を数え、全自交愛知地連の今後の組織力強化にむけ力強さを感じる集会になりました。

本年10月の全自交大会で書記長に選任された松永次央氏も東京から駆けつけ、挨拶の中で「全国的にもこのような労使懇談会は数少ない。労働集約産業には不可欠な労使協調を更に推進してほしい。又、タクシー事業法は民主党タクシー議員連盟を中心に是非成立させたいので事業者の方々の御協力をいただきたい。新潟におけるカルテル問題についても山場を迎えつつあるが労使で紛糾することをお願いしたい」との言葉がありました。

最後は愛知地連竹内紀安副委員長が、締め挨拶を行い今後の愛知地連における労使協調を誓い合いました。